

2020年11月29日 聖餐式説教

教会の暦では一足早く本日より新年を迎えました。現在の口語祈祷書から採用されました教会の暦は、三年で一回りするようになっておりますが、今日からはいりましたのはB年であり、大切な節目であります。よきスタートを切りたいものと思います。

さて、本日降臨節第一主日は目覚まし時計の主日を言われております。主イエスのご降誕をお迎えする前のこの四週間、私達はクリスマスをお迎えする準備をすると共に、自分の信仰生活を振り返り、主なる神の声を静かに聞くことが勧められております。

クリスマスを4週間後に控えて、クリスマスに関係する聖書の個所を旧約・使徒書・福音書から学び、次第にクリスマスの雰囲気盛り上げていくということではないのです。日課もまた、こうした趣旨のもとに選ばれているのです。

先ほど読まれました福音書は、まさに降臨節第一主日の主題である、目を覚まさないとの主イエスの御言葉が様々な例を通して語られております。

皆様は旧約聖書の創世記に記されております、ノアの箱船の物語を良くご存知のことと思います。主なる神は地上に人の悪が増し、常に悪いことばかりを心に思い計っているのをご覧になり、地上に人を造ったことを後悔され、心を痛められました。しかしノアは主の好意を得、箱船を作って難から逃れることを主より示されました。

ノアたちが箱船に入った七日後、洪水が押し寄せて悪を重ねていた人々は全滅しました。毎日自分たちが楽しければそれでよい、主なる神は自分達の行いを見ていない、あるいは自分たちの悪を主が見て心をいためられていることに気づかなかった、主が今まで忍耐して悪を重ねる自分たちを見ておられたことに気づかなかったのでした。その結果主は彼らを滅ぼされたのです。彼らの上に下された審きは、彼らが目を覚まさないゆえにおこったのでした。

主イエスはそのことをお話しになって、私達に目を覚ますように教えておられます。教会の新年にあたっての主イエスのメッセージは、目を覚まさないということなのです。あなたの信仰生活を振り返りなさい。あなたの日々の信仰生活はそれでいいのか、あなたがたの日々はそれでいいのか、目を覚まさない。

主はこのように私達に言うておられるのです。そして信仰生活とは自分自身と主なる神の間のことであり、自分自身との戦いであることを示されました。私達それぞれが今、目を覚して振り返り、このときを過ごすことが求められているのです。

降臨節には目的が二つあります。ひとつはあと四週間後に迫ったクリスマスの準備をすることです。間近に迫ったクリスマスの様々な準備をする、やはりこれは降臨節の大切な目的です。私達の心を清めて主イエスをお迎えする準備をすることです。

そして第二の目的は、再び来られる主イエスをお迎えする準備をすることです。主イエスはこの世での働きを終えて天にお帰りになられました。再びこの世に来られて審きをなさいます。その日はただ主なる神の御心のうちにあり、私達は知るすべもありませんが、主よりのメッセージは、目を覚していなさい、その時は思いがけない時にやって来る、ということなのです。私達はこの二つの目的を良く覚えて、降臨節を過ごしていきたいものと思います。

日本では十二月が三月と並んで大変忙しいときになっております。また歳末ということでもどこもクリスマスと言って大騒ぎしております。私達もまたそういう世界から縁を切って過ごすわけにはいきません。しかし私達が今日迎えた降臨節は、自分との戦いの時であり、静かにクリスマスを待ち望むときであり、また主イエスよどうぞ私のところに来てください。と私達が主に心に向けて、主のみ声を聞いていくときであります。慌ただしい日々の中にあっても、どこか静かに心を主にに向けて、主イエスよきたりませ、と祈っていきましょう。